

週刊今株ドットコム

2009年

12月
26日号

勝負は1週間～4週間! 短期投資で儲けるための最新銘柄情報を毎週末提供!

久々の年末高で、新春相場の期待高まる

かつて株式市場の景気がよかった頃の年の瀬には、「掉尾の一振」とか「掉尾を飾る～銘柄」などといった文言が新聞紙上を賑わせたものでした。掉尾とは辞書によりますと、「魚が激しく尾を振る意、終わりになって勢いの盛んなこと」とあります。最近市場関係者も世代交代が進んだせい、この掉尾という言葉はあまり聞かれなくなりましたが、2009年相場はここにきてようやく勢いが出た感があります。

「週刊・今株ドットコム」も、今年の9月に創刊されたばかりですが、読者の皆様、そして多くの関係者の皆様のご支援により、徐々にではありますが、勢い、がついてまいりました。新年は1月9日号からのスタートとなりますので、引き続きのご愛顧、ご支援のほどよろしくお願いたします。

「週刊・今株ドットコム」編集部

CONTENTS

週刊・今株ドットコム 2009年12月26日号

相場の裏オモテを知り尽くした経済評論家 杉村富生が推奨する今週の特選銘柄	2
ニュースも材料も必要なし テクニカル指標で見つける大ヒット候補株	3
的中率抜群の株式分析ソフトで儲ける 本誌が厳選する今週の妙味銘柄	4
買い銘柄と売り銘柄のサヤで儲ける 今週のベアトレード大作戦!	5
ニューヨーク・ダウをサキヨミする!	6
「ミニ先物」をサキヨミする!	7
Mr.ストップ高 天海源一郎の「儲けてこそ、株!」 column カラ売り専科	8
注目銘柄チャート分析 タラレバ編集後記	9

(注) 本誌は、株式投資の銘柄や投資手法に関する情報提供を目的としたものです。掲載された各銘柄や投資手法にはそれぞれの投資リスクが存在しますので、投資に関する最終的な確認および決定は、投資家ご自身の判断でお願いします。なお、実際の株式投資における損失につきましては、株式会社実業之日本社および編集協力企業、本誌執筆・編集スタッフ等はいっさい責任を負いかねます。また、業績数字や株価などの各データにつきましては、できるかぎり最新のものを正しく掲載するよう努力いたしますが、その正誤につきましても投資家ご自身によるご確認をお願いいたします。

*チャート提供/編集協力：(有)増田経済研究所

(注)「増田足チャート」の問い合わせは、以下までお願いします。
homepage@masudaasi.co.jp Tel:045-581-2408 Fax:045-581-2444

相場の裏オモテを知り尽くした経済評論家
杉村富生が推奨する今週の特選銘柄



杉村富生 ● 経済評論家

2010年相場は小型株がフィーバー?

2010年相場では小型株がフィーバーする可能性がある。20年前の1990年がそうだった。日経平均株価は1989年12月29日に大天井を打ったが、小型株の人気は1990～1991年末まで続いた。2010～2011年には定期貯金80兆円の満期もある。ジャスダック、マザーズ、ヘラクレスなど新興市場は個人主導のマーケットであり、意外な急騰劇が演じられるのではないか。狙い目はエレクトロニクス、ネット、バイオ関連セクターにあらう。

杉村富生の特選銘柄① テラ

2191 ジャスダック 売買単位100株

免疫細胞療法のトップ企業 免疫細胞療法は外科手術、抗ガン剤に続くガン治療における「第3の道」といわれている。将来的には保健適用の可能性もある。株価は7月9日に2,195円の高値をつけたあと、調整している。25日には57万株の立ち会い外分配（価格1,998円）を行なった。週明けは売り物に押されるだろう。しかし、そこが買い場となろう。機関投資家など実需筋による取得の意向が伝えられている。

売買メド
 直近値 ● 1,202円
 目標値 ● 1,300円



杉村富生の特選銘柄② ハドソン

4822 ヘラクレス 売買単位100株

コナミが親会社 ゲームソフト開発の老舗である。10月以降、新作を次々に投入している。 아이폰、SNS向けなど新事業の開拓に意欲を見せる。親会社はコナミ（発行株式数の53.9%を保有）であり、経営リスクは乏しい。足元の業績は「計画通り」（会社側）としている。2010年3月期の連結1株利益は65円ガラムを確保できるだろう。配当は年20円とする。株価はファンドの売りに急落したが、売りは一巡。

売買メド
 直近値 ● 448円
 目標値 ● 600円



ニュースも材料も必要なし テクニカル指標で見つける大ヒット候補株

担当/マーケット・アナリスト 三上 守

株価と日付の順位から上げ過ぎ、下げ過ぎを示すRCI

RCI（順位相関係数）は有力なオシレーター系指標のひとつであるが、計算式がSTCやRSIと比べると複雑なので、この2つと比べると一般投資家の人気はいまひとつのようだ。しかし、STC、RSIに勝るとも劣らない威力があるので、ぜひ使い方を覚えていただきたい。RCIは株価と日付の順位から上げ過ぎ、下げ過ぎを示す指標で-100~+100%間を動く。ここでは詳しい計算式は解説しないが、チャート専門書などで勉強することは可能だ。

大ヒット候補株① 日比谷総合設備

1982 東証1部 売買単位1株

RCIの予想が的中 12月10日の758円から24日には835円まで急騰。目先、12月4日の858円を抜いて上昇トレンドを確立できるかどうかのカギとなる。5日、10日基準の2本のRCIは12月10日の最安値のところでゴールデンクロス。そこから上昇し、12日の830円で小休止したところでデッドクロスと、抜群の予想力を示している。RCIの高水準エリアながら、再びゴールデンクロスに向かっている。

直近値 ● 850円
目標値 ● 868円抜け



大ヒット候補株② リケンテクノス

4220 東証1部 売買単位100株

RCIのゴールデンクロス間近 8月から200~230円レベルの往来相場。押し目を取っていく姿勢が、いまのところ堅実だと思われ、オシレーター指標が力を発揮する局面だ。5日、10日RCIは直近の高値、12月16日に233円をマークしたところでデッドクロス。そのまま5日RCIは-100%まで下降したところで陽転。220円付近でもみ合っているところで、再度ゴールデンクロスが間近となっている。

直近値 ● 216円
目標値 ● 230円



買い銘柄と売り銘柄のサヤで儲ける 今週のペイトレード大作戦

担当／本誌・ペイトレード研究班

マーケット・リスクをヘッジしながら儲ける方法

ペイトレードとは、ある銘柄を買いと同時に別の銘柄をカラ売りする投資手法。ロング・ショート」などとも呼ばれる、個別銘柄を使った一種の裁定取引だ。この手法の利点は、マーケット・リスクを避けられることで、安全性の高さが魅力。ただし、買い銘柄と売り銘柄の売買代金(株価×株数)を同程度にすることが必須条件となる(例:買い銘柄約100万円+カラ売り銘柄約100万円)。

ペイトレード銘柄① 東芝

(買い銘柄)

6502 東証1部 売買単位1,000株

上値余地大 先物主導で年末の株高が形成されているのは、値動きのいい日経225採用銘柄で勝負したい。日経平均株価は8月31日に10,767円の高値をつけたが、東芝のその日の高値は483円。その後、日経平均株価が値を消したのに対して、東芝は10月23日に572円の高値をつけている。520円台まで戻してきたが、日経平均株価および先物が高値を追っているのは、まだ上値が見込める。

売買メド
直近値 ● 518円
目標値 ● 572円抜け



ペイトレード銘柄② タカラトミー

(カラ売り=信用の売り建て銘柄)

7867 東証1部 売買単位100株

指数にツレ高できず 日経平均株価および先物が上値を追っているのに対して、なかなかツレ高できない銘柄もある。この株も12月9日の785円から値を崩す展開で、気がつけば11月27日につけた722円が視野に入ってきた。業績は、今期連結経常利益が54億円から100億円へと84%増益の見通しだが、市場からは評価されない値動きだ。25日移動平均線が下落しており、75日移動平均線も割り込んでいる。

売買メド
直近値 ● 752円
目標値 ● 722円近辺



ニューヨーク・ダウをサキヨミする!

担当/チャート分析家・石丸雄治

年初来高値更新で、ジリ高歩調続く

先週のニューヨーク・ダウは、堅調ぶりを見せつけた。12月21日の10,330ドルからスタートした株価は、24日には10,522ドルまで高値を追った。これは、12月4日の10,516ドルを上抜く年初来高値。そして、この間、じつに4日連騰である。

「増田足」の先読みチャートを見ても、3日足、25日足、75日足がともにピンクでジリ高を予測している。ファンダメンタルズ的には、商品相場の堅調ぶりが大きな支援材料となっており、年末年始にかけてよほどの悪材料でも出ないかぎり、新年相場も当分は上値追いの展開となろう。



「ミニ先物」をサキヨミする!

担当/チャート分析家・石丸雄治

スピード調整が必要な展開だが、上値指向継続

先週の「ミニ先物」は、24日に10月26日の戻り高値10,405円を一気に上抜き、10,560円まで上昇した。2009年は9215円でスタートしており、このままいけば大幅な上昇で終わることになる。振り返れば、11月30日につけた9005円で年足陰線の可能性も出たが、ここからの急速な戻り足には驚くばかりだ。ただ、わずか1カ月で1500円も上昇しただけに、ここからの一段高には支援材料が必要となる。

「増田足」の先読みチャートを見ると、3日足と25日足はピンクだが、75日足はブルーになっている。上値は重くなってきたが、年始高の期待は大きい。



Mr.ストップ高
天海源一郎の「儲けてこそ、株！」



天海源一郎 ● 株式ジャーナリスト、個人投資家。

3年連続陰線の回避は弱気相場の終わりを告げるサイン

一日立会いとなる大納会（30日）の大引けで、日経平均株価が9,043円12銭（1月5日の終値）を上回れば、本年の年間足は陽線となる。現状の水準を勘案すれば「大丈夫」と言っていだろう。これにより、「3年連続陰線」は回避されることになる。これは長期低迷相場の終わりを告げるサインと見ることもできる重要事ではないだろうか。本年最終週も薄商いの中で、売り方の買戻しが中心の堅調な展開になるものと考えている。

天海源一郎の今週のイチ押し銘柄 日本電気硝子

5214 東証1部 売買単位1,000株

受注拡大が続く 世界的にテレビやノートパソコンの販売が好調であることを背景に、ガラス基板のユーザーであるパネルメーカーの増産→同社の受注拡大が材料視されている。大手証券でもレーティング「1」を継続し、目標株価を1,750円としている。直近の株価の動きを見ると、12月24日に年初来高値を更新した後も、同水準で値を保っている。年内にもうひと伸びする気配も感じられる。

売買メド 直近値 ● 1,288円
 目標値 ● 1,400円 (までで一旦売却)



担当／本誌・カラ売り銘柄発掘班

業績低迷で見切り売りが続くアイチコーポレーション

年末になって日経平均株価が上値追いの展開となるなか、一方で業績見通しの芳しくない銘柄の売りは続いている。当然といえばそれまでだが、アイチコーポレーション（6345）の株価は低迷の一途。7月30日には530円まで上値を追ったものの、その後はつるべ落とし。10月26日の戻り高値445円から11月26日には316円まで急落。12月4日には376円まで戻したものの、指数高のなかまたジリジリと下げている。主力の特殊車両が需要低迷で、今期業績は41%もの大幅な減収見通し。連結経常利益も、54億円から10.5億円へと80%もの減益だけに、見切り売りが続こう。

成功銘柄チャート分析

「増田足」の買いサイン点灯銘柄、大平洋金属が10%高!



タラレバ編集後記

先週号でも取り上げましたが、12月18日に日経平均株価は3週移動平均線が13週移動平均線を上抜きました。チャートの鉄則通り、週足的には久々のゴールデンクロスということで年末高局面が現実のものとなりました。本誌は、投資期間1週間から4週間までという「短期投資専門情報誌」を標榜していますが、分足や日足

だけでなく、週足や月足もチェックする必要性を痛感しました。年末にかけての株価上昇を意外視する投資家も多いようですが、週足的には「至極当然」だったことになります。

先週、大平洋金属を寄付きで3,000株買って週末に引け値で手仕舞いしていれば、18万円の利益となった計算です（取引コスト除く）。